

学校だより

四日市市立小山田小学校

平成25年 7月 2日

●*● 雨の登校はなかなかたいへんです ●*●

空梅雨という声も聞かれますが、6月26日の雨はなかなかまとまった量でした。子どもたちは長い距離を歩いて登校する子がたくさんいます。この雨ではたいへんだろうなと昇降口で様子を見て二つのことに気がつきました。

一つ目は、靴下の替えを持っている子が何人かいたことです。長靴を履いて登校する子もたくさんいますが、少々この雨の降り方にもかかわらず、運動靴で登校してくる子もいます。

当然、靴下はビショビショに濡れてしまいます。靴下の替えがあると、履き替えて気持ちよく過ごすことができます。このような天候の時には**靴下の替え**を持たせていただけたらと思います。

二つ目は、昇降口を入る時、傘の水気を取り、ちゃんと傘を巻いて傘立てにしまっている子がたくさんいたことです。できていない子には声をかけましたが、すぐに巻いてくれました。校舎内に水気ができるだけ入らないように水気をきります。廊下が濡れてしまうと転んでケガをするとたいへんです。巻いて



おけば、傘をとるときに友だちの傘の柄がひっかかって持ち上がってしまいます。その傘は斜めになってしまい、また他の人が取り出しにくくなります。どこに出かけても雨の日の傘の始末はマナーとして身につけておいてほしいものです。

●*● トイレのスリッパをそろえている素晴らしい行動をみかけました ●*●

最近、子どもたちが帰った後にトイレを見て回ると、スリッパがよく整うようになってきました。先生がしてくれているのかと思うと、そうでもなさそうです。男子の方は整っていて女子の方が整っていないなど、ちぐはぐなことがあるからです。先生なら両方するでしょう。これはやはり子どもたちの中で整えてくれる子がいるということです。一人ひとりがそろえることができても全体で同じように並んでいるということは、全てをそろえなおし整えている子がいるということです。すばらしく望ましい行動だと思います。

●*● 懇談会ありがとうございました ●*●

ある学年の懇談会の様子の中で、子どもへの小言が多くなってきたり、マイナス面で見えてしまうことが多くなったりするという話題があったようです。このことについて最近読んだ本に関連することが書かれていたので、ご参考になればと思い紹介いたします。

～「子どもを認める、ほめる」というのは、口先だけのことではないからです。本当に「ほめる」子育てをするためには、親は根本的に、わが子に対する見方を深めていかなければなりません。基本は「できなくてあたりまえ」という前提から出発することです。生まれたばかりの赤ちゃんを思い出すなら、時が経つにつれ、見せてくれる成長ぶりには、畏敬の念さえ覚えるものではないでしょうか。親自身が子どもの中にある、神秘的ともいえる「育つ力」に気づくことで、子どもへの接し方は自然に変わってくるはずで、子どもに対して勝手に設定した基準を、いったんすべてなくしてしましましょう。すると、子どものすることはすべて愛らしく、喜びをもたらしてくれます。ちょっとした成長のサインだけでも嬉しく、感動に値することがわかります。そして自然に、心底から、「あなたは素晴らしい」と、子どもに語りかけているはずで、つまり、本当の「ほめる子育て」とは「親の感動を伝える子育て」なのです。（「魂」の人生学 著者＝七田眞 講談社）